

J・ステアリン
F・スコウゼン

改訂 会計概説

上田雅通訳

ジョンL.ケアリー/K.フレッド・スコウゼン

改訂 会計概説

上田雅通訳

法律文化社

訳者略歴

上 田 雅 通(うえだ・まさゆき)

1932年 兵庫県に生まれる
1954年 大阪市立大学商学部卒業
1954年～59年 大阪化学繊維取引所調査部勤務
1961年 神戸商科大学専攻科退学
1963年 関西大学大学院法学研究科修士課程卒業
1965年 関西大学大学院商学研究科修士課程卒業
1968年 関西大学大学院商学研究科博士課程修了
現 在 阪南大学教授、会計史・会計監査論・取引所論を担当
関西大学非常勤講師、簿記を担当
訳 書 リトルトン・ジンマーマン共著「会計理論—連続と変化—」税務経理協
会刊
J. ケアリー著「会計概説」初版、法律文化社刊
論 文 フィネー・ミネーの低価主義論
貨幣価値変動会計に関する一考察
など、多数

<検印省略>

¥ 2,200

1975・3・31 初版 第1刷発行
1978・10・30 改訂 第1刷発行

改訂 会 計 概 説

訳 者 上 田 雅 通

発 行 者 柴 田 稜

発 行 所 株式 法 律 文 化 社

京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71
振 替 京 都 10617番

中村印刷株式会社・池田製本所

3033-103079-7729

監修のことば

本書は、J. L. Carey, *Getting Acquainted with Accounting* の訳本である。便宜上、表題は「会計概説」となっているが、正しくは「会計になじませること」の意であり、それこそ本書の内容、その意図を実に適確に表現しているといえよう。

大学で商学部、経営学部に着をおく学生諸君の多くは、入学時にはその学部特有な学問として、簿記会計系列の科目を十分に履修したい、できれば専門の職業会計人へのコースを進みたいとの希望をもっている。しかし上級年次にすすむにつれて、この系列の科目を苦手とし、できればそれをさけて通りたいとする傾向が顕著になってくる。その理由は、はじめに習う簿記のメカニズムがぼんやりと講義を聞くだけでは理解しにくく、それかといって内容はとかく無味乾燥で、勉学の意欲がわかないということにある。

この欠陥を是正するために、本書は複式簿記の技術的説明をさけて、まず簿記会計が近代的な経済社会のなかでいかに重要な役割を果たしてきたか、またその役割は経済の発展につれてますます重要性をますますだうことを十分に説明し、それへの関心をたかめ、その勉学の意欲をたかめようとしている。まことに興味深い試みといえよう。

さて本書の説明は多岐にわたっており、個々のテーマは簡潔な文章でつづられている。その内容は初心者にとっても理解できるものでありながら、他面、すでにその門をくぐった専門家にとっても十分に読みごたえのある含蓄の深いものとなっている。まさに理論と実務の双方に精通

した大家の書かれた真の入門書というべきだろう。

上田雅通君の手により価値ある文献の訳本が出版されることを心からよろこんでいる。私も監修者としてできるだけ邦訳の手伝いをしたが、なお十分だったとはいえない。原著の内容をどれだけ正確に伝えているかとなると、若干危惧の念は残る。これらについては訳者の今後のいっそうの努力に期待するとともに、諸先生がたのあたたかい御教示をお願いしたい。

植 野 郁 太

著 者 の 序

本書 *Getting Acquainted with Accounting* は、その表題が示すように、会計に精通していない人々が会計について何か学ぼうとしているのに役立つように初めから意図された。改訂版においても、その目的は——会計とはいったい何かという即席的知識を提供すること——は変わっていない。

本書は会計についての自分の研究を始めている学生に正しい展望を与えるように考察された副教科書であり、会計原則の入門講座の初めに最もよく使用されている。本書は大学の一回生および二回生の学生向きであるが、それは以前に会計に触れたことのない M. B. A. [※] プログラムで勉学中の人々にとってさえも有益なものとなるだろう。先の初版もまた、数多くの学校での会計の中級講座において成功裡に使用された。

※ M. B. A. (Master Course in Business Administration) 大学院修士課程経営幹部育成コース (訳者注)。

本書は会計を教えようとするのではなくて、むしろどういうふうに会計がアメリカ経済に適合しているかを示そうとしている。会計とは何か？ 会計は何をしているのか？ 会計はどういうふうに人々の生活に影響を及ぼすのか？ 会計の将来はどうなりそうなのか？

これらの質疑に対する応答と共に、会計学徒はその理論と技術により一層集中すべきである。それらの人々は、数多くの断片的部分が、有用な全体にどのように適合するかを知ることができ、何(what)と、どういうふうに(how)ということとともに、なぜ(why)ということも理解する

ようになるだろう。

「何を」(what)と「どういうふうに」(how)ということを学ぼうとしていない学生たちでさえも、会計の性格・範囲・および使用についての一般的観念を得るのに本書が有用であるということを見出すだろう。この種のことについての若干の理解がなければ、例えば、財務諸表を読みとったり、法人所得税の基礎的諸概念を把握したり、あるいは、企業もしくは非営利組織の財務管理の特質を評価することは困難である。

数多くの会計の初級教科書は、複式簿記の通則や手続から始めている。簿記は、会計に不可欠だが、単に初歩的な部分にすぎない。会計士は簿記を理解しなければならないが、彼らの仕事はそれをはるかに越えて進んでいる。簿記は、もし学生が、簿記の最終的産物がどういうふう to 使用され、それがなぜ有用であるかを知るものでなければ、ほとんど知的課題とはならない。

どういうふうに会計をするかということに集中する代わりに、本書は読者がその基礎的な技術的題材に直面するより以前に、会計のあらゆる局面に広汎な展望を与えようとしている。それは、会計とは何かということ、会計はどういうふうに社会に適合するかということについての論議から始まる。そのあと、それは会計進化を記述し、あらゆる企業活動と会計との関連性を論議する。会計過程の最終的産物——会計報告書——を論議した後、会計監査、管理会計、および税務会計を含む会計の専門職内における特別な領域に本書は注目する。本書は、会計がどういふふうに専門職の地位を獲得してきたかを論議することによって、会計の将来への展望を記述することによって、また、会計活動の分野における経歴の機会を確認することによって、完結する。

改訂版において、企業の諸概念と諸状況の特別な例示と説明が、企業

の背景をもたない学生に本書をもっと理解しやすくするために追加された。本書のある部分は、経済学・統計学・数学・およびその他企業と関連する学科目と会計との関連性、会計の財務情報の種々の使用者に及ぼす影響、現在の環境のなかでの会計および企業におけるコンピューターの役割、および、例えば財務会計基準審議会の設立と、増大する証券取引委員会の影響のようなその他の最近の会計発展を包有して、拡充された。同様に、本書のある側面は圧縮された。例えば、一般に是認された会計原則の発展についての進化的かつ歴史的側面はいくらか整理された。論題の範囲と前後関係を改善するために、はじめの諸章——特に第1章から第4章まで——の数節の再編成があった。最後に、討議問題が教室での使用を容易にするために各章の末尾につけ加えられた。これらの問題に対する解答の概要が巻末に与えられている。

初版におけると同様に、本書に簡潔に提示された若干の概念および原則をより徹底的に研究したいと思っている学生たちのために、参考書目が与えられている。

読者は、本書の論題の大部分が会計の諸概念・諸基準・および諸技術が詳細に検討されるその後の会計講座において論議されるということを中心に浮べるべきである。したがって、読者は、たとえ本書のなかのあらゆる事項がさしあたって自分らにわからなくても、心配しなくともよい。若干の項目はもちろん不慣れであろうし、学生は、それらの項目が初めは理解するのにいくぶん困難であるということを見出すだろう。くり返すと、ここでの目的は、いったい会計は何かということについての感動を伝えることだけである。その問題についての追加的な理解は、若干の会計の構造的側面が研究されるにつれて、あとを追うだろう。学生が、彼らの会計の入門講座の期間中、定期的に Getting Acquainted with

Accounting を検討することは、特に有益なものとなるだろう。また、多数の会計学徒も、家族や友人に自分らの選択した専門職を説明するにあたって、本書が有益であることを見出すことができる。

著者らは、本書の改善に役立つ示唆をいただいた多数の初版の使用者と、その評論家に感謝のことばを申し述べたい。特に初版を書評された Wilbur Wright College の Thomas Lenchen 氏、North Harris County Community College の Sue Robinson 氏、Modesto Junior College の Roman Salazar 氏、および、Merritt College の Carl Wolters 氏にももちろん感謝したい。Bee County College の Ann Green 氏、Brigham Young University の Karl Herde 氏、および、Mount Hood Community College と Portland State College の Dennis Mohn 氏には特に改訂版のために参考となる示唆をいただいた。

この改訂にあたってなんらかの方法で援助していただいたすべての人々に対して、我々は謝意を表明する。本書の読者が会計の専門職およびそれが社会において演じる役割により一層精通されることを切望するしだいである。

J. L. C.

K. F. S.

目 次

植野郁太博士による監修のことば

著 者 の 序

第1章 会計とは何か？	1
資源配分のための情報	2
組織のための情報：内部情報と外部情報	4
会 計 と 個 人	6
会計の社会的貢献	7
社会的目標への資源配分のための情報	9
要 約	11
討 議 問 題	
第2章 会計の進化	13
原 始 会 計	14
複 式 簿 記	14
株 式 会 社	15
合衆国の工業化	17
資本形成と財務報告	17
科学的管理法	19
企業に対する政府規制	20
政府の社会計画	21
政府の内部会計	23

中小企業の会計	23
非営利組織の会計	24
会計と経済統制	25
要 約	27
討 議 問 題	
第3章 企業活動の会計におよぼす影響	29
企 業 活 動	30
会 計 過 程	32
会計原則の発展	34
証券取引所との合意	35
証 券 法	37
会計手続委員会	38
変動する経済環境	39
会計原則審議会	40
経営者と監査人	42
財務会計基準審議会	43
要 約	45
討 議 問 題	
第4章 財 務 報 告	47
貸 借 対 照 表	48
損 益 計 算 書	51
現金主義対発生主義	55
資 金 計 算 書	56
不確定期間の公準	57

原 価 対 時 価	58
貨幣単位の安定性	59
特別な報告書	60
要 約	61
討 議 問 題	
第5章 会 計 監 査	63
監査基準と監査手続の進化	65
明 瞭 表 示	70
法 的 責 任	72
監査人の地位の強化	73
コンピュータの影響	74
証明機能の拡大	76
要 約	78
討 議 問 題	
第6章 管 理 会 計	81
意 思 決 定	82
計 画	85
予 算	86
原 価 計 算	89
統 制	93
オペレーションズ・リサーチ	94
行 動 科 学	96
情報システム	98
要 約	100

討 議 問 題

第7章 税 務 会 計 103

課税所得の性格..... 103

特別の引当金..... 104

財務会計への影響..... 107

納 税 計 画..... 109

課 税 の 根 拠..... 110

税 金 論 争..... 111

法 的 側 面..... 113

単純性と公平性..... 114

要 約..... 116

討 議 問 題

第8章 専門職の地位の獲得 119

会計専門職の進化..... 120

合衆国における専門職..... 122

会計事務所の伸長..... 124

専門的会計士..... 126

会計教育の評価..... 129

新しい会計入門..... 132

継 続 的 教 育..... 134

C P A 試験の影響..... 135

専門職の倫理..... 136

社 会 的 責 務..... 141

要 約..... 142

討 議 問 題

第9章 将来への展望 145

財 務 報 告..... 146

会 計 監 査..... 152

管 理 会 計..... 157

社 会 会 計..... 161

人間の会計への反応..... 163

人的資源の会計..... 165

会 計 教 育..... 167

要 約..... 168

討 議 問 題

第10章 専門的な会計の経歴 171

報 酬..... 172

仕 事 の 選 択..... 173

会 計 の 分 野..... 176

競 争..... 177

人 々..... 179

要 約..... 180

討 議 問 題

討議問題に対する解答概要..... 183**参 考 書 目**..... 199**訳者あとがき——改訂にあたって——** 205

第1章 会計とは何か？

会計は、合衆国において最も急速に成長した専門職と呼ばれている。1945年から30年間以上の間で、会計士の数は三倍以上になった。この傾向はなおも続いている。今日、この国では50万人を越える会計士がおり、そのうち多数の人々が専門職業家としての資格を認定されている。大体、これらの専門職は、独立した公認会計士 (CPAs) として、事業の管理者もしくは財務担当重役として、大学教授として、最高レベルの政府機関の、および病院のような非営利組織の行政職として、働いている。

なぜ、会計士に対する継続的かつますます増大する需要があるのか。会計士は何をするのか。なぜ、会計の理論と実務が我々の社会の全構成員の経済的意思決定に重要な影響を及ぼすのか。本書において著者はこれらの質問と同様な質問に答えようとする。会計士のさまざまな責任と活動はあとの諸章で多少詳細に探究される。本章は、会計規律およびそれの社会との関連性を取扱う。

現在の企業環境においては、会計がなければどのような組織もうまく運営されえない。このことは、最大の組織——たとえば、合衆国政府もしくはゼネラル・モーターズ——についていえると同様にその最小のもの——書店・教会・病院・YMCA支部・歌劇団さらに家族——にもあてはまる。会計の十分な知識をもつか、あるいは会計士の助力をうるか

どちらかでないかぎり、誰も全般的にうまく組織を経営することはできない。どのような規模の企業も、熟練した会計士の助けがなければ、合衆国では生きながらえることはできない。

これはなぜか。いくらかの人々が簿記と誤って混同している会計とよばれるこの過程に、何が、アメリカ社会におけるこのように不可欠かつ広範な役割を振り当てているのか。

資源配分のための情報

真実のところ、それはごく簡単である。会計は、特定の組織にとって利用可能な資源のすぐれた使用のために絶対的に必要である特種の情報を提供する。ある組織がどんなに裕福であろうとも、そのもつ資源は限られている。確かに、組織が裕福になればなるほど、組織は、ますます多く浪費しなお生きながらえることができる。しかし、組織は、そのもっている資源をどういうふうにするかについての多少ともすぐれた意思決定をしない限り、生きながらえることはできない。しかも、組織は、会計が提供するその種の情報なしには、このような意思決定をすることはできない。

利用可能な資源をいかに用いるかを決定するにあたって、会計はどういうふうに使われるか。最も単純化されたレベル、すなわち個人的意思決定では、個人あるいは家族は、家を買うか居所を賃借するか、テレビを買うか車を買うか、娘の歯を直してもらるか、家族と休暇をとるか、ということを決定しなければならない。家族は、安全に金銭を借りられるか、それとも掛で買うことができるか。彼らは子供の教育のため、また高齢になってからの自活のためどれくらい貯えるべきか。どういうふ

うに彼らはその貯えを投資すべきか。堅実な意思決定は情報を必要とする。いまの場合、それらは、税金・利息・保険料・家賃・家と車の維持費・および家族がどのくらいの収入を将来において合理的に予想することができるかということ、のような諸項目についての情報である。人々は行動の代替的コースの選択に直面している。もしもその人々が十分な情報なしに決定するとすれば（それはあまりにもしばしばすべてに生ずることだが）、金銭上の不幸が生じるだろう。

かなり複雑性の高いレベルで、営利会社の経営者もまた行動の代替的コースの選択に継続的に直面している。新しい機械を購入すべきか。新製品の製造に乗り出すべきか。価格を引き上げるべきか引き下げるべきか。もっと多くの人々を雇うべきか。他の会社を吸収すべきか。追加資本を獲得すべきか、もしそうだとするなら、銀行借入という手段によるか、それとも社債もしくは株式の発行によるか。それぞれの行動の見積原価とそこから生じる収益はどれだけか。これらの質問への正確な解答は、最も洗練された種類の会計情報を必要とする。

銀行が金銭を貸付けるかどうかを決定するにあたってもっていなければならない会計情報、また投資家が社債や株式を買入れるかどうかを決定するにあたってもっていなければならない会計情報は、批判的な重要性をもつ。自由に処分できる資源のすぐれた使用をするために、彼らは、貸付金が戻されそうかどうか、あるいは、投資が公正な利益を生みそうかどうか、を判断するためにはこのような情報を要求する。

おそらく、最高レベルの複雑さは、連邦政府が個人および株式会社への課税から引出した莫大な資源を使用するにあたってしなければならない意思決定において、必要とされる（ついでながら、税金は主として会計情報に基づいている）。政府の自由になる多額の貨幣・政府活動の範囲とそ